

## TIP 058 レンズ塗りで額縁や立体ボタンを即座に作成

額縁のような囲みや、ウェブページでよく見かけるようなボタン類は、何度も使用するケースが多いパーツだ。これらを即座に作成するのに、レンズ塗りが利用できる。あらかじめ立体ボタンのオブジェクトを作成し、これに「塗り: レンズ」[透明度]を設定しておくだけで、これをグラデーションでも、写真画像の上にも、ただ重ねるだけで、なんでも額縁や立体ボタン風に表現できる。また「中心」にチェックを入れると、レンズ塗りの中心を指定することが可能だ。この中心を別のオブジェクト(写真)に移動すれば、写真を額縁にはめ込んだ表現も簡単にできる。設定を「拡大」にして倍率を変えることもできるので、屈折表現も可能だ。Photoshopのプラグインに同様のものがあるが、FreeHandの場合、画像を直接加工するわけではないので、自由に編集できるのは言うまでもない。何にでも適用でき、汎用性も高い。(安田健司)

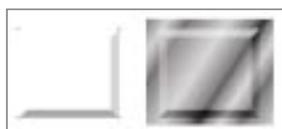


図1 ボタンの形になるよう、ベベル部分や正面にそれぞれ「塗り: レンズ」[透明度]を施す(左)。あとはこのオブジェクトを重ねるだけで立体になる(右)



図2 図1の場合、正面(選択部分)の設定は「明るく: 13%」ベベル部分については、上部は「明るく: 50%」左は「明るく: 29%」下部は「暗く: 50%」右は「暗く: 26%」



図3 複数の立体ボタンも簡単に作成。ボタンを多用するウェブサイトのコンテンツ作成などにも便利だろう

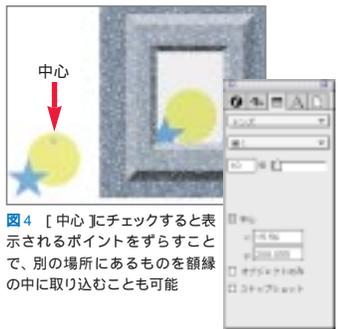


図4 「中心」にチェックすると表示されるポイントをずらすことで、別の場所にあるものを額縁の中に取り込むことも可能

## TIP 059 3D回転で即席ワイヤーフレーム

ちょっとしたワイヤーフレームのイメージやパース画像が欲しいときに役立つのが、エクストラツールの「3D回転」だ。ここでは複製など基本機能と組み合わせ、ビルを形状を作成してみた。手順としては、まずビルの上面図の状態を描き、塗り(なし)または「レンズ」[透明度]とする。これに「3D回転」ツールでパースをつける。パースをつけたら、編集メニュー「クローン」を適用して、これを変形パレットでY軸に移動し、垂直方向のみ75%伸縮させる。続けて、編集メニュー「複製」を繰り返し、垂直線を描き込めば完了だ。なお、「クローン」から「複製」までの操作時には、選択を解除しないよう注意していただきたい(TIP 050参照)。作例では最後に色の变化を与えたが、このほかにも、最初の上面図を基にして作成した床や天井だけでなく、壁側にもレンズ塗りを「透明度」をつけてもよいだろう。(安田健司)



図1 ビルの上面図の状態を描く。ここではレンズ塗りを施している



図2 エクストラツールの「3D回転」でパースをつける

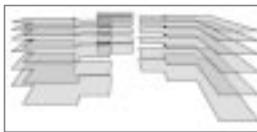


図3 「クローン」後にY軸移動、垂直方向のみ75%伸縮し、「複製」する。ここでは「複製」を5回繰り返した



図4 垂直線を入れ(左)、色に変化を与えてみた(右)

## TIP 060 異なる地色にドロップシャドウを落とす

FreeHand上、すなわちローデータで異なる地色に対してグラデーションのドロップシャドウを自然に落とすには、ブレンドを再編集して異なる地色ごとに色を合わせ、内部にペーストでマスクを作成して合成する(図1~3)。これが画像やグラデーション上のシャドウとなるとPhotoshopが必要と思われるが、これもブレンドで作成した影に「塗り: レンズ」[透明度]を適用することで自然な影を表現できる(図4~6)。だが、若干の問題が残る。レンズ塗りはオブジェクトにマスクをかけて表現されているため、何枚も重ねるとオブジェクト数が累乗的に増え、

処理時間に影響するからだ。画面表示上はいくら重ねても問題ないが、出力時に多大な影響が出る。この作例では、自然に見えるブレンドのステップ数と処理時間との妥協点を15ステップあたりと見なした(ただし、レンズ塗りは8つまでは重ねても機能するが、9つ目を重ねると下から順に機能しなくなる)。とはいえ、データのラスターライズは問題なくできるので、出力時にラスターライズするのであれば、さらにステップ数を増やすことも可能である。このあたりは条件に合わせて使い分けたい。(安田健司)

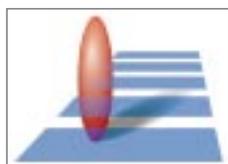


図1 地色が白と単色の組み合わせの場合(左)。これを分離させてみると、マスクによって表現されていたことがわかる(右)

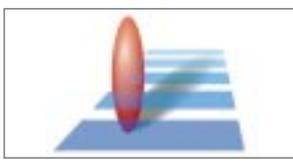


図2 地色が白と、濃淡の変化がある色の場合

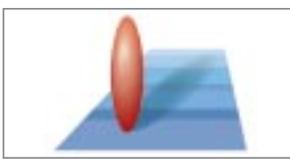


図3 地色が複数の濃淡色の場合



図4 下地が画像の場合



図5 下地がグラデーションの場合



図6 図5の影の部分だけを見ると、ブレンドにレンズ塗りを施しているのがよくわかるだろう

